

審査結果の要旨

報告番号	乙 第 3042 号	氏名	岩橋 頌二
審査担当者	主査	平岡 弘二	(印)
	副主査	野村 政壽	(印)
	副主査	川口 巧	(印)
主論文題目：The impact of sarcopenia on low back pain and quality of life in patients with osteoporosis (骨粗鬆症患者において腰痛と生活の質にサルコペニアが与える影響)			

審査結果の要旨 (意見)

骨粗鬆症にサルコペニアを合併すると腰痛の増悪、さらには quality of life (QOL) の低下をきたす可能性を示唆した临床上重要な研究である。本研究ではサルコペニアと脊柱アライメント不良、特に骨盤傾斜との関連を解析しており、骨粗鬆症にサルコペニアを合併し、腰痛が増強することで、さらに脊柱アライメントが悪化することが予測され、高齢者の QOL 維持にはサルコペニアへの意識を強く持つことが重要であることを示した重要なデータであると考えられる。今後は代謝との関連やサルコペニアを予防するために、年齢以外の因子に対しどのように対応していくかなど、サルコペニアを起点とした悪循環をとめるためにも研究の継続が望まれる。

論文要旨

サルコペニアを伴う骨粗鬆症は、転倒、骨折、さらには死亡のリスクを高める。しかし、サルコペニアが骨粗鬆症患者の腰痛や生活の質(QOL)に与える影響はまだわかっていない。本研究の目的は、サルコペニアを伴う骨粗鬆症患者の腰痛と QOL を調査することである。

骨粗鬆症治療のために来院した 100 人を評価した。腰痛は、Visual Analogue Scale (VAS) を使用して評価した。日本整形外科学会腰痛評価質問票 (JOABPEQ) スコアを使用して、QOL を評価した。グループ間の VAS によって評価された腰痛強度の違いは、Willcoxon 順位和検定によって評価した。共分散分析は、QOL を評価するために使用した。すべてのデータは、中央値、四分位範囲、または平均、標準誤差のいずれかで表した。

患者はサルコペニア群 (n=32) と非サルコペニア群 (n=68) に分類された。VAS によって評価された腰痛強度は、非サルコペニア群よりもサルコペニア群で有意に高かった (33.0[0-46.6] 対 8.5[0-40.0]; p<0.05)。腰痛の JOABPEQ のサブスケールは、非サルコペニア群よりもサルコペニア群で有意に低かった (65.0±4.63 対 84.0±3.1; p<0.05)。

サルコペニアは骨粗鬆症患者の腰痛と QOL に影響を与えた。サルコペニアは、腰痛や QOL を悪化させる可能性がある。